

NewsLetter

自治医科大学地域医療オープンラボ

Vol.109, Aug, 2016



離島における臨床と研究～対馬の整形外科～

☆推薦文☆

Flexor carpi radialis bravis (FCRB) は手関節掌側にある破格筋で、これまで国内外での報告は数えるほどです。今回、永田先生が同一施設で5例発見したことは非常に価値が高いと言えます。発見率はまちまちで、過去の報告では0.6～8.7%と決して稀な破格筋ではありませんが、手術中にかなり注意深く観察していないと見逃してしまいます。その意味で永田先生の観察力の鋭さと絶え間ない探求心が、今回の英文論文として実を結んだのだと思います。しかもFCRBを形態学的に分析し、その特徴から2つのタイプに分類したのは世界初の仕事で、後輩として非常に誇らしく思います。これからも先生のご活躍を期待しています。
自治医科大学 整形外科 安食孝士 (島根14期生)

長崎県病院企業団 対馬病院 整形外科 永田純一 (長崎34期卒業)

長崎県34期の永田純一と申します。今回、CRSTの支援を受けて執筆したCase Report “Anatomic Variations of the Flexor Carpi Radialis Brevis: A Report of Five Cases”¹⁾が *Journal of Hand Surgery Asian-Pacific Volume 2016;21* に掲載されましたので、この場を借りてご報告とお礼を申し上げます。



まずは、対馬についてご紹介致します。長崎県対馬市は人口3万2000人、奄美大島、佐渡島につぎ日本3番目の大きさの島です。北は海を挟んで韓国釜山との距離が約50kmであり、韓国からの観光客も多く、自然豊かな国際観光市です。整形外科は自治医科大学卒業生の市村竜治先生、小島隆治先生、小島安弘先生、里村健志先生が歴代で赴任され対馬の整形外科診療を継続させて来られました。平成27年度5月17日には新病院が開院し、長崎県病院企業団対馬病院として新体制での診療が始まりました。現在は、出田聡志先生、土肥憲一郎先生、私の3人の自治医大卒業生と福岡大学病院整形外科教室から1名の計4人体制での診療を行っています。今回、報告させて頂きました論文には上記の先生方が執刀された症例も含まれていることをまずは断っておきたいと思います。



執筆に至る経緯ですが、私は平成25年4月に卒後3年目で対馬いづはら病院(前)に整形外科医新米として赴任しました。日々悩みながら、そして整形外科1年目としては驚くほど数多くの経験をさせていただきました。その中で比較的Majorな手術である橈骨遠位端骨折の手術中に、手術書には記載のない筋腱組織を認めました。過去の報告を調べたところ、それが破格筋であることに気づきました¹⁾。当時の上司であった小島安弘先生も同様の症例を経験したことがあるというお話を聞き、過去の手術記録も含めて注意して観察してみると2008年から2015年の間に手術をした橈骨遠位端骨折の症例123例中5例に破格筋を認めました。海外での報告例は散見するものの、国内での症例報告は1例²⁾のみであったため、論文になるのではと思いCRSTに依頼することにしました。学会発表、論文執筆にいたるには、CRSTの亀崎先生をはじめ、英文執筆に関しては手取り足取り安食先生のご指導を受けることとなりました。地方会での発表、日本手外科学会での発表を経て、論文執筆に進みました。当時を振り返ると、あまりマメではない私は約半年近くも執筆に時間がかかり、安食先生にも大変ご迷惑をおかけしたと反省しています。論文がアクセプトされたというメールを頂いた

時にはほっとしたと同時に大変光栄でした。

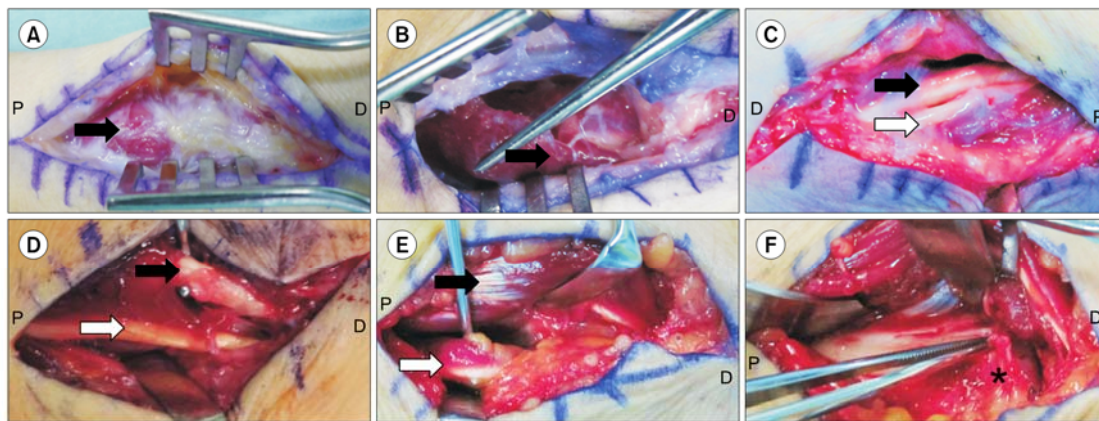


Fig. 1. Various anomalous muscles of the wrist. (A) Case 1. (B) Case 2. (C) Case 3. (D) Case 4. (E) Case 5. (F) The underdeveloped pronator quadratus in case 5 (asterisk). D: Distal limit of the incision, P: proximal limit of the incision, black arrow, flexor carpi radialis brevis (FCRB); white arrow, flexor pollicis longus.

終わりに、一年間の再研修を終え今年度4月から、再度対馬での離島勤務となりました。これから離島診療にあたり、次の5つを私の診療の哲学、信念として行きたいと思います。

- ① 患者さんを治すという熱い**情熱 passion**をもって謙虚に接すること。
- ② 新しい知識、**技術 skills**を積極的に学び取り入れること。
- ③ 自分だけの専門分野を**極めて advanced**、腕を磨くこと。
- ④ 経験したことを**学術 academic**として発信すること。
- ⑤ お世話になる周りの方々への**感謝 appreciation**の気持ちを忘れないこと。

再研修でお世話になった菅谷啓之先生（船橋整形外科スポーツセンター長）の教えです。

このたびのCRSTの支援には大変感謝をしています。この経験を対馬に還元して、今後も離島医療に楽しみを感じながら励んでいけたらと思います。最後にお世話になりました、安食先生、亀崎先生に再度深く感謝申し上げます。

参考文献

- 1) Nagata J, Kojima Y, Satomura K, Ishiko T, Ajiki T: Anatomic Variations of the Flexor Carpi Radialis Brevis: A Report of Five Cases. The Journal of Hand Surgery (Asian-Pacific Volume) 2016;21(1):113-115.
- 2) 二宮宗重, 三浦一人, 上村一成, 鈴木一瑛, 渡辺牧人, 藤川隆太: 短橈側手根屈筋(破格筋)が展開の障害となった橈骨遠位端骨折の2例. 整形・災害外科 2013;56(3):301-304.

！！地域医療オープン・ラボNews Letter原稿募集！！

地域医療オープン・ラボでは、自治医大の教員や卒業生の研究活動を学内外へ発信するために、「自治医科大学地域医療オープン・ラボNews Letter」を定期的に発行しています。

<http://www.jichi.ac.jp/openlab/newsletter/newsletter.html>

- ☆ 自治医大の教員や卒業生の研究活動をご紹介ください
- ☆ 自薦・他薦を問いません
- ☆ 連絡先:地域医療オープン・ラボ openlabo@jichi.ac.jp

[発行]自治医科大学大学院医学研究科
地域医療オープン・ラボ運営委員会
事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1
TEL 0285-58-7044/FAX 0285-44-3625/e-mail openlabo@jichi.ac.jp
<http://www.jichi.ac.jp/graduate/index.htm>